

Lite-Puter

DX-1220A / DX-1230A



オプション：ツアーケース



▶ 製品の特徴

この度はLite-Puter 製調光機「DX-1220A / DX-1230A」をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
本製品の性能を十分に発揮させ、末永くお使い頂くために、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読み頂き、大切に保管して下さい。

Lite-Puter「DX-1220A、DX-1230A」は、モジュールタイプのDMX・アナログ両対応ディマーです。C2/C3 リニア調光カーブを採用し、自動周波数センサーが50Hz/60Hzを判別し、自然な調光をおこないます。

各チャンネルに高速マグネティック・ブレーカーを装備。4つのサーモファンが加熱時に自動動作します。75度を超えるとディマー動作停止 65度まで冷えるとリスタートします。

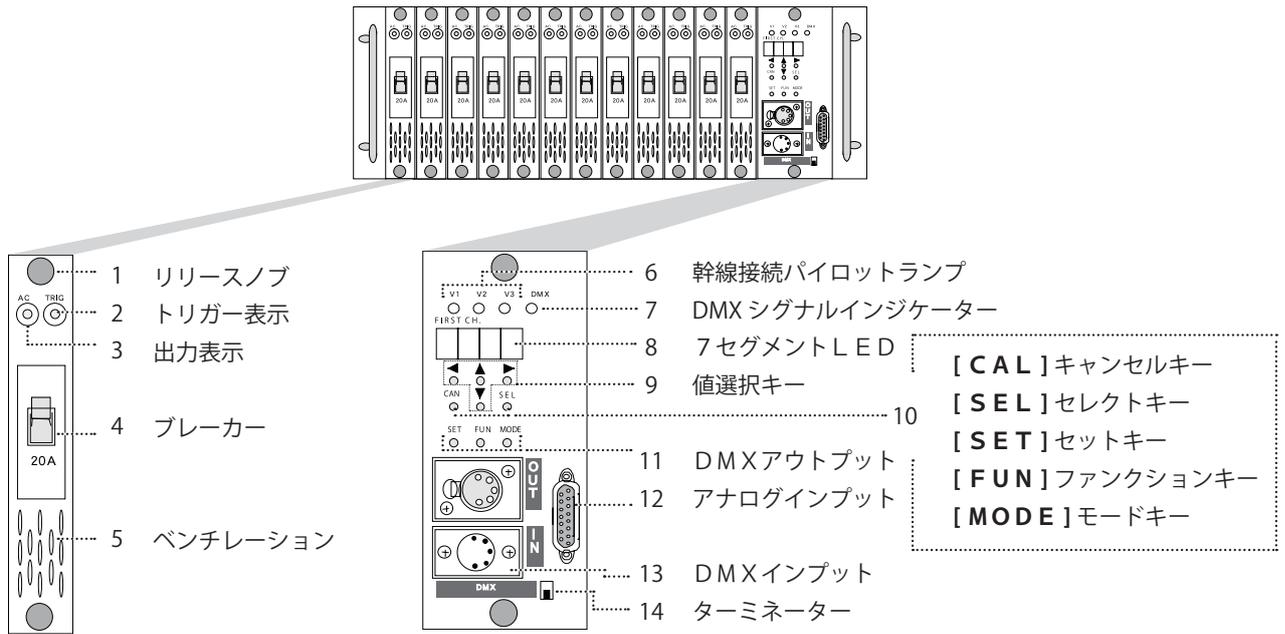
▶ 特徴

- DMX12チャンネル
- C2/C3 リニア調光カーブ
- 自動周波数センサーが50Hz/60Hzを判別し、調節
- セルフテスト機能
- 各チャンネルにプリヒート機能（0～6%）
- 各チャンネルに調光オンオフの設定

▶ スペック

	DX-1220A	DX-1230A
電源	100～120V AC 45～63Hz 3相4線	100～120V AC 45～63Hz 3相4線
出力	各チャンネル 20A 合計 240A	各チャンネル 30A 合計 360A
DMX 接続	XLR 5ピン オススメ	XLR 5ピン オススメ
アナログ 入力	D-sub 15ピン メス DC 0～10V 12ch	D-sub 15ピン メス DC 0～10V 12ch
プリヒート	0～6%	0～6%
寸法 (whd)	482 x 176 x 297 mm 4U	482 x 176 x 260 mm 4U
重量	21kg	29kg

各部の名称



チャンネルモジュール

1. リリースノブ

各モジュールを外す際上下にあるこのノブをひっぱり出すことにより、ロックが外れモジュールをケースより抜き取ることができます。

2. トリガー表示

入力されたDMX信号やアナログ信号を受けマスターモジュールより各チャンネルへ出力されているコントロール信号の有無を表示します。

3. 出力表示

上記のコントロール信号を受け調光されたACラインレベルを表示します。玉切れ等のチェックが可能になります。

4. ブレーカー

高速遮断型サーキットブレーカーで各チャンネルに過負荷がかかった場合、即座に回路を遮断します。

※何らかの理由によりこのブレーカーが作動し回路が遮断された場合、原因を確かめ復旧してから入れ直した下さい。

5. ベンチレーション

背面にマウントされたオートマティックファン（負荷の状態により始動）により内部トリアックよりの発熱を強制的に冷却し、このベンチレーションより排出します。

※如何なる理由においても、このベンチレーションをふさがないでください。

マスターモジュール

6. 幹線接続パイロットランプ

背面の幹線接続端子(V1,V2,V3 又は V1,V2,V2',V3)にAC100Vが正常に接続されているかのモニターランプです。

※ 幹線の脱着には必ずその幹線のブレーカーを遮断してから行って下さい。

7. DMX シグナルインジケータ

DMXインプットに接続されたコントローラー等の機器より出力された信号を受信した際点灯します。

8. 7セグメントLED

この4デジット7セグメントLEDにより、以下で説明する各パラメーターの状態を表示します。

9. 値選択キー

次に説明する各種パラメータを選択し、その値を入力します。

11.13. DMX 入出力

DX-1220A / DX-1230Aは、XLR5pinタイプコネクタを採用しています。3pinタイプのコントローラー等と接続する場合は、以下のような変換ケーブルをご使用下さい。

5pin	1	2	3	4	5
3pin	1	2	3	NC	NC
	E	sig -	sig +		

12. アナログ入力

(Dsub-15pin)

pin	1~12	13	14	15
	CH1 ~ CH12 (0V ~ 10V)	NC	Vcc(+12V)	GND

14. ターミネーター

本機を1台ないしはカスケード接続の最後に接続した場合スイッチを"ON"にしてください。(DMXアウトプット端子に接続がない場合は"ON"にする。)

設定

ご使用にあたり幹線、灯具、コントローラを確実に接続の後、次に説明する順番に各種設定を行って下さい。

1. 本機をコントロールする信号のタイプを選択する。

モードに関して (MODE-KEY)

DX-1220 に通電した場合は最後に表示されていたモードが表示されますので (MODE) KEY により "DMX" "ANALOG" "OFF" を選んで (SEL) KEY により決定して下さい。詳細は MODE キー説明ページをご覧ください。

MODE キーを押した場合の内容

MODE1: DMX
MODE2: アナログ
MODE3: OFF

2. モードを決定の後、ファンクション、セッティングにより各種設定を行う。

ファンクションに関して (FUN-KEY)

MODE キーを押した場合の内容 FUN1: モニター
FUN2: テスト
FUN3: 自動フェードテスト

セッティングに関して (SET-KEY)

SET キーを押した場合の内容 SET1: ワームアップ
SET2: 調光 / スイッチ
SET3: プログラムシーン

不用意にキー入力をしないためのロックする方法

ロック：MODE キーと FUN キーと キーを同時に押す。
解除：MODE キーと FUN キーと キーを同時に押す

モード

重要：各キーによりモードを変更したり値を変更すると各 LED の右下にドットが表示されますがこの時点では動作に反映されていませんので、(SEL) キーを押して決定して下さい。又ドットが点灯している間に (CAN) キーを押すと以前のモードや値が呼び出されます。

MODE1: DMX

ディスプレイの表示 d001 ~ d512

"d" は デジタルを意味しています。スタートチャンネルは割り当てて一番最初の ch の意味で、本機は 12ch を受信しますので例えば "001" を表示している場合は DMX ch1 から ch12 を各 ch モジュールの左から順に割り当て、"005" を表示している場合は DMX ch5 から ch16 を割り当てます。

D-sub 15PIN 入力端子より 0-10V アナログ信号が入力されている場合いその値が優先されます。

[◀][▶] キーでチャンネルを 1ch ずつ

[▲][▼] キーで 12ch ずつ設定して下さい。

[SEL] キーを押して設定します。

MODE2: アナログ

ディスプレイの表示 AE12

D-sub 15PIN 入力端子より入力されている 0-10V アナログ信号により各チャンネルモジュールがコントロールされます。

(MODE) キーにより "AE12" を表示させ (SEL) キーを押して設定します。

MODE3: OFF

ディスプレイの表示 OFF

全ての入力を禁止しブラックアウト (暗転) します。

(MODE) キーにより "OFF" を表示させ (SEL) キーを押して設定します

ファンクション

FUN1: モニター

ディスプレイの表示 010.1. ~ 12F.L.

コントローラからの信号レベルにより調光する値を、自動的に各チャンネル 01% ~ FL (100%) 表示します。DMX、アナログ入力の両方に対応します。[◀][▶] キーにより強制的に表示チャンネルを選択できます。

FUN2: テスト

ディスプレイの表示 tA.00 ~ 01.00 ~ 12.FL

"tA" はテスト・オールを示しています。注意 このテストモードは DMX 信号を受けている間は動作しませんので、コネクタを抜いて、接続を外して行って下さい。再び DMX 信号を入力すると設定はキャンセルされます。本機のみで各チャンネルの出力を可変することが出来ます。

[◀][▶] キーでチャンネルを変更し

[▲][▼] キーで出力値を入力して下さい。

表示が tA.00 になっているときは、全てのチャンネルが [▲][▼] キーにより入力した同じ値を加算し変化します。

例えば ch2 が 15%、ch3 が 20% その他 ch00% のとき tA.15 に変更すると、ch2 は 30% に、ch3 は 45% にその他 ch は 15% に変化します。

[SEL] キーを押すとここで設定した値が他のチャンネルに反映されます。

FUN3: オートマチックフェードテスト

ディスプレイの表示 A.F.A.L. ~ A.F.0.1. ~ A.F.1.2.

"AF" はオートマチックフェードを表しています。本機のみで各チャンネル出力を一定の周期で点滅させることが出来ます。

[◀][▶] キーでチャンネルを指定します。

[SEL] キーでスタートします。

[▲] キーで強制的に "FL" 100% に

[▼] キーで強制的に "00" OFF にします。

表示が A.F.A.L. になっているときは、

[SEL] キー押すことにより全てのチャンネルが一定の周期で点滅を始め、[CAN] キーを押すことにより停止します。

▶ セッティング

SET1: ウォームアップ

ディスプレイの表示 AL.0.0~AL.6.0~01.0.0~12.6.0

“AL” はオールチャンネルを示しています。

ウォームアップとはバルブ（電球）フィラメントにあらかじめ微量の電流を流しておくことにより、フィラメントの寿命を延ばし、反応を上げる働きをします。バルブの種類により電流値が異なりますので各チャンネル毎の設定が可能です。全て同種のバルブを使用されている場合はALモードで設定して下さい。

※ ウォームアップでは0.4% づつ最高6.0% までの値が設定できます。

[◀][▶]キーでチャンネルを指定し

[▲][▼]キーで値を設定してください。

SET2: ディミング/スイッチング

ディスプレイの表示 AL=d ~ 01=d ~ 12=d

AL=S ~ 01=S ~ 12=S

“AL” はオールチャンネルを示しています。

“D” はディミング（調光）

“S” はスイッチング（切換）を表しています。

ディミングとスイッチングが各チャンネルに混在すると表示はAL=_になります。各チャンネルの出力を調光するか on-off の切換で使用するかを設定します。

スイッチングを設定した場合、各チャンネルのインプットはヒステリシスになっていますので on になるには約50%の信号が off にするには約20%の信号を受信したときそれぞれの動作をします。

[◀][▶]キーでチャンネルを指定し

[▲][▼]キーで“D”、“S”を設定してください。

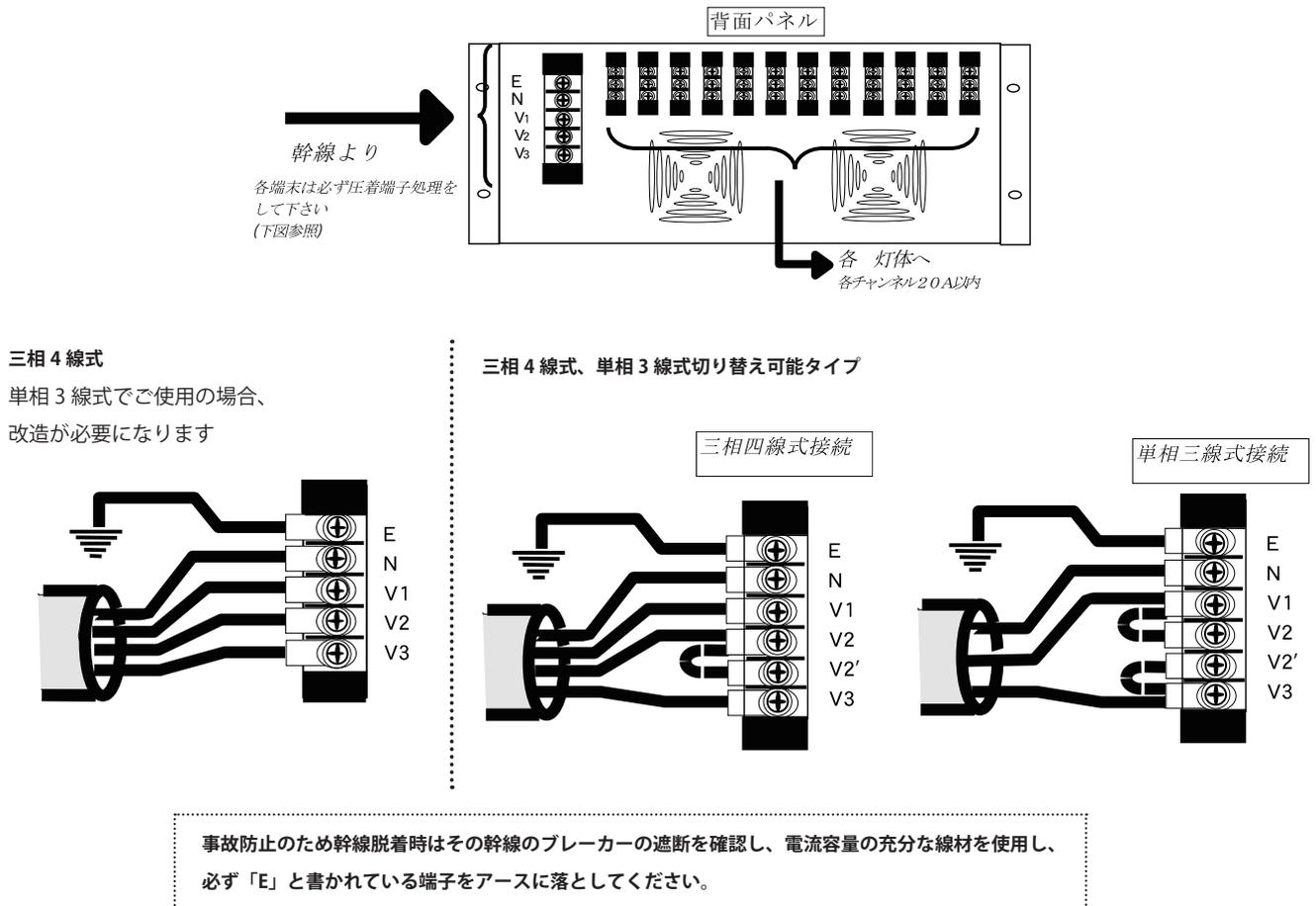
※スイッチングモードではON-OFF 動作になりますが、信号はトライアックを通じているので、モーターを使用した機器や安定器を使用した機器のコントロールはできません。

SET3: プログラミングシーン

ディスプレイの表示 SC-P

“SC” はシーンを表しています。本機に電源を供給した直後に点灯させるシーンを記憶させることができます

▶ 幹線接続図



この取扱説明書は、IDE コーポレーション有限公司が制作しています。

発売元：IDE コーポレーション有限公司

〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-1-24